

みんなで考えよう

わたしたちの介護問題

可部支部では、2021年に亀山で起こった「介護殺人」について学習を行いました。これは妻の介護に限界を感じた夫が、妻の了承を得て殺害した事件です。この事件がきっかけで男性介護者の交流場「かめやまケアメンの会」が発足しました。皆さんは何を感じ、何を思いますか？

老老介護

先日、支部会議で職員さんが「学習会」として老老介護の実情について「悲しい、ある出来事」を朗読されました。老老介護で疲れた夫が妻に手をかけるといふ悲惨な出来事でした。終わりは夫の孤独死という重ねがさねの胸の痛む話です。朗読が終わり、会議に参加した人は黙って息をのんでいました。私も他人事ではなく、いま自分の家の実態と変わる事ではなく、不安の毎日です。私の家は妻が訪問介護、ホームヘルパー、配食という援助を受けながらの生活です。私自身は支援①で歩行困難、毎日手押し車で4千歩の散歩の努力をしながら「痛み」と闘っています。高齢化社会を迎えて、体力の衰えは一様にのしかかってきます。長生きが喜べるように痛みと闘いながら、一日一日を大切に生きていこうと思っています。

88歳 M・I

可部支部総会開催

5月15日に可部支部総会をおこないました。コロナ禍で2022年度もあまり活動ができず1年が終わりました。今年度もさらに組合員さん達と共にスタートさせていきたいと思っています。1人でも多くの組合員さんを増やして頑張りたいです。

可部支部 支部長 佐々木

山田さんありがとうございました！

長年、可部支部役員として地域活動にご尽力された山田鯉都子さんが、この度役員を引退される事となりました。

～可部支部での活動を振り返って～

医療生協に関わって25年になりました。長い間ご指導頂き、楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。医療生協を知ったのは、共立病院に子供の小学校の先生が入院された事がきっかけでした。私は当時横川におり、初めて存在を知りました。私は歴史に興味があり、江戸時代にあった小石川療養所の赤ひげ先生の話が好きでした。共立病院はその現代版だと感じました。医療生協は組合員で成り立っている事を知り、私もすぐに組合員になりました。活動を始めて今日に至り、「老兵は消え去るのみ」ですが、何か役に立ちたいという気持ちでいっぱいです。可部支部役員を辞める事となり、今後は組合員として仲良くやっていきます。今後ともよろしくお願いいたします。



可部 絵手紙班
H・Kさんの作品